

日本人の職業別死亡状況の変遷

「産業保健21」編集委員、(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 所長代理 ● 甲田茂樹

厚生労働統計協会が毎年発行している「国民衛生の動向」に国勢調査実施年で得られた職業別年齢調整死亡率を比較した「職業別の死亡」が示されている。下表は著者が入手可能な範囲で得られたデータを日本人の職業別死亡状況を比較するためにまとめたものである。

まず、採鉱・採石の死亡状況が他職業に比べて高く、年々上昇していった。粉じんばく露や労働災害などがこれほど死亡状況を悪化させていることに驚かされる。農林漁業とサービス職業の両者の職業上のリスクは全く異なるが、死亡状況は一貫して高い状況にあるようだ。前者は古くから職業上の危険有害リスクが指摘されていた。後者の職業上のリスクへの認識は薄かったが、第12次労働災害防止計画では労働災害多発の重点業種として第三次産業が対象となったり、卸・小売業、外食産業などが過労死等の多発職種として認識さ

れたり、職業上のリスクをさらに分析する必要がある。

1995年から男女別に死亡状況が報告されるようになったのは時代の趨勢でもあろう。1995年以降でみると、専門的技術的職業、農林漁業とサービス職業が男女ともに死亡状況が平均より高くなっているが、とりわけ男女の専門的技術的職業と男性のサービス職業で最近の悪化傾向が目立っている。また、女性の運輸・通信と保安職業、建設・採掘は高い死亡状況を示しており、女性には体力的に過酷な職業ではあるが、どのようなリスクが関与しているのか検討する必要がある。

すでに報告されている職業上のリスクという概念では把握できないリスクや女性の社会進出や近年の過重労働、さらには、今後予想される「働き方改革」なども念頭に入れて、死亡状況に影響を与える要因を紐解いていく必要がある。

表. 日本人の職業別死亡状況の変遷 (1970年～2010年)

	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
専門的技術的職業従事者	88	92	109	104	106	95	144	166	130
専門的技術的職業従事者(女性)						97	114	220	179
事務従事者	90	87	81	85	83	88	67	40	44
事務従事者(女性)						58	47	40	37
農林漁業従事者	129	136	137	141	115	155	159	132	147
農林漁業従事者(女性)						134	125	105	121
採鉱・採石従事者	197	190	455	652					
建設・採掘従事者									112
建設・採掘従事者(女性)									1200
運輸・通信従事者	109	112	123	114	251	99	94	121	103
運輸・通信従事者(女性)						471	391		
生産工程従事者	83	82	70	68	66	67	48	50	
生産工程従事者(女性)						47	39	60	
保安職業従事者	57	62	61	66	89	81	74	113	53
保安職業従事者(女性)						537	466		1163
サービス職業従事者	104	96	139	137	159	187	182	184	171
サービス職業従事者(女性)						101	94	125	110

註1: 各年度の数値はその年度の全体の就業者数の年齢調整死亡率を100とした指数をあらわしている。

出典: 国民衛生の動向

註2: 1970年から1985年は訂正死亡率の基準人口を昭和35年の男性15歳以上の就業者全体とし、指数を算出した。

註3: 1990年から2010年は年齢調整死亡率の基準人口は「昭和60年モデル人口」とし、指数を算出した。

編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長 相澤 好治 北里大学名誉教授
 大西 洋英 独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事
 加藤 隆康 豊田衛生管理者研究会顧問
 神ノ田昌博 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長
 甲田 茂樹 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所所長代理

河野 啓子 学校法人暁学園四日市看護医療大学名誉学長
 興梠 建郎 新潟産業保健総合支援センター所長
 浜口 伝博 ファームアンドブレイン社代表/産業医
 東 敏昭 学校法人産業医科大学学長
 松本 吉郎 公益社団法人日本医師会常任理事